

## ギリシャ概況(2026年4月)

### 【経済】

#### 1) ギリシャ、2026 年末にユーロ圏内債務最大国から脱却か (2026 年 4 月 23 日)

ギリシャは 2026 年末までに、ユーロ圏で最も債務比率の高い国ではなくなる見込みであり、公的債務はイタリアを下回る水準に低下すると予測されている。ギリシャの債務は、2025 年の GDP 比 145%から 2026 年には約 137%へ縮小すると見込まれる。一方、イタリアは同期間に 137.1%から 138.6%へ上昇する見通し。2020 年以降、ギリシャの公的債務は 45 ポイント以上低下しており、昨年は GDP 比 145%となった。

<https://www.ekathimerini.com/economy/1301753/greece-to-be-overtaken-by-italy-as-euro-zones-most-indebted-country-in-2026/>

#### 2) IMF、今後 5 年間ギリシャの公的債務が急速に低下すると予測 (2026 年 4 月 15 日)

国際通貨基金(IMF)の「財政モニター」によれば、ギリシャは高水準の基礎的財政収支黒字を背景に、2026 年以降 2031 年まで公的債務の大幅な削減を達成する見込みである。先進国の公的債務が増加傾向にある中、ギリシャの債務は GDP 比 145.7%から 110.9%へ低下し、先進国平均を下回ると予測される。債務は 2026 年に 136.9%、2027 年に 130.3%へと低下し、その後も減少傾向が続く見通し。基礎的財政収支黒字は徐々に縮小するものの、引き続き高水準を維持すると見られている。

<https://www.amna.gr/mobile/article/985425/IMF-foresees-rapid-drop-in-Greeces-public-debt-and-high-primary-surpluses-to-2031m>

#### 3) ギリシャ、燃料 200 万バレルを放出(2026 年 4 月 8 日)

ギリシャは国際エネルギー機関(IEA)による協調措置の一環として、戦略備蓄から 200 万バレルの燃料を放出する。対象にはガソリン、ディーゼル、重油が含まれ、これは同国の IEA 割当分に相当し、約 2,500 万バレルとされる 90 日分備蓄の約 8%にあたる。放出は燃料の種類ごとに均等に配分され、IEA の規則に従い、その後 3 カ月かけて段階的に補充される予定である。今回の放出はギリシャにとって初の措置であり、供給混乱が複数国で発生する中、EU レベルでの要請があれば追加対応も検討される。

<https://www.ekathimerini.com/economy/energy/1300457/greece-to-release-2-million-barrels-of-fuel/>

### 【政治】

#### 4) ギリシャで農業補助金スキャンダル拡大 (2026 年 4 月 1 日~20 日)

欧州検察官は、進行中の農業補助金詐欺捜査において、新たな捜査資料をギリシャ当局に送付した。これには、ギリシャ共和国議会議員のハラランボス・アサナシウ (Haralambos Athanassiou) と タソス・ハジヴァシリウ (Tassos Hadjivasiliou) が職務違反扇動の疑いで告

発されている。欧州検察庁(EPP0)が主導するこの調査は、未所有または未耕作の土地に対する請求を含む、欧州農業資金の誤用に関するもの。職務違反は EPP0 の管轄外であるため、ギリシャの検察官は議会に事件を送付し、議会が不逮捕特権を解除するかどうかを決定する。これとは別に、検察官は農業大臣のコンスタンティノス・チアラス (Konstantinos Tsiras)、市民保護大臣のイオアニス・ケファロヤニス (Ioannis Kefalogiannis)、および元大臣のコスタス・カラマンリス (Kostas Karamanlis) を含む議員の不逮捕特権解除を議会に要請した。

ギリシャ議会はこれまでに、新民主主義党 (New Democracy) 所属議員 13 人の不逮捕特権解除を承認しており、さらなる調査への道が開かれた。

#### **5)ギリシャ軍の電子メールアカウントにサイバー攻撃(2026年4月16日)**

報道によると、ロシアに関連するサイバースパイ活動により、ギリシャ軍司令部内の国防駐在官やその他の機密部隊を含める 27 の電子メールアカウントが侵害された。このサイバー攻撃は、北大西洋条約機構(NATO)加盟国、ウクライナ、バルカン諸国の高官を標的とした広範な攻撃と関係すると見られている。研究者たちは、ファンシーベア (Fancy Bear) として知られるグループが関わっている可能性を示唆しているが、その帰属については依然として議論が分かれている。

#### **6)ギリシャ、西バルカン諸国と「デルフィ宣言」に署名 (2026年4月23日)**

ギリシャは、西バルカン諸国とともに、同諸国の EU 統合を加速することを目的とした新たな「デルフィ宣言」に署名した。外務大臣のゲオルギオス・ゲラペトリティス (George Gerapetritis) によって発表されたこの宣言は、2003 年のテッサロニキ・アジェンダ (Thessaloniki Agenda) を更新するもの。このイニシアチブは、協力を強化し、EU 加盟手続きを加速させ、地域の欧州への展望を強化することを目指す。ギリシャは、2027 年の EU 理事会議長国を務めるにあたり、拡大の主要な擁護者としての地位を確立している。

#### **7)ギリシャとフランス、防衛協定を更新 (2026年4月23日)**

ギリシャとフランスは、アテネで行われたミツオタキス首相とマクロン大統領による会談を受け、二国間防衛協定をさらに 5 年間更新した。同協定は 2021 年に締結されたものであり、相互防衛条項を含んでいる。

さらに、防衛協定に加え、両国は教育、研究、原子力技術分野での協力など、幅広い分野を対象とする 9 件の追加協定にも署名した。

両首脳はまた、ピレウスにおいてギリシャ海軍のフリゲート艦キモンを視察し、スタブロス・ニアルコス財団文化センターで開催された経済フォーラムに出席し、両国間の戦略的パートナーシップの深化を強調した。